デンマークの歴史・生涯学習へ

生涯学習施設フォルケホイスコーレとともに

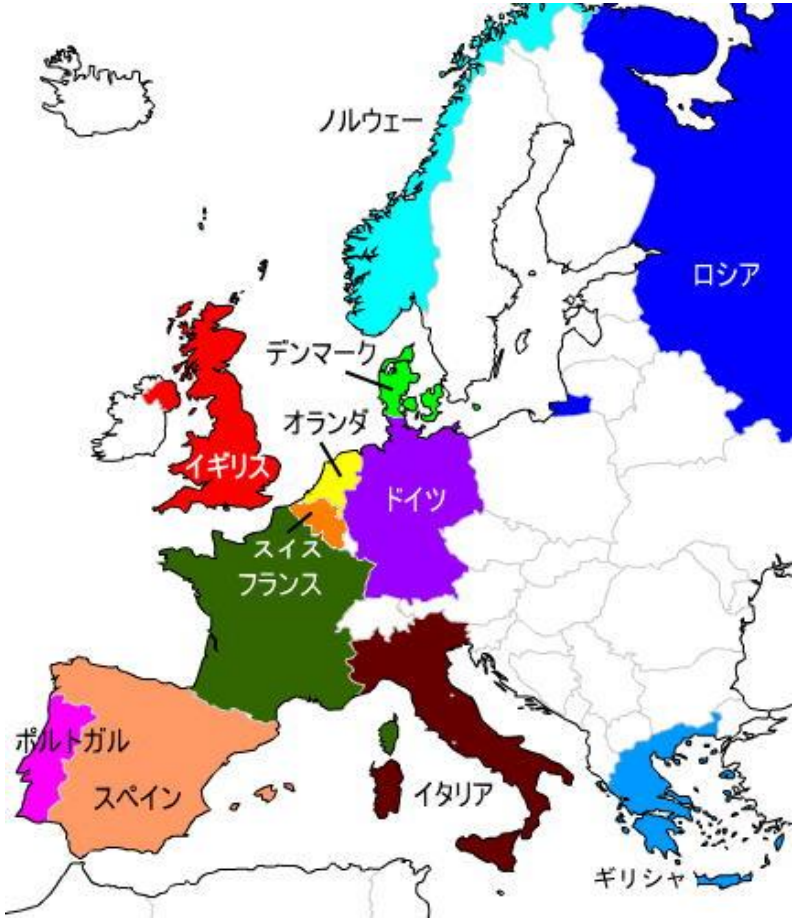
デンマーク

21世紀の今、世界で一番しあわせな国

面積は約4.3万平方キロ（九州とほぼ同じ）
人口は約570万人(日本の20分の1・兵庫県程)
　　九州の40％の人口
バルト海と北海(英・仏・独・英)を分ける要所
(ユトランド半島と周辺の島嶼部分で構成)

首都コペンハーゲン：エーレスンド海峡で
　スウェーデンと向き合う。(鉄橋)で結ばれ、
　　スウェーデン国有鉄道で40分程

15世紀（応仁の乱の頃）には
　　バルト制海権を握る大国



バルト海の制海権

10世紀 ハーラル1世（在位958年? – 985年）キリスト教に改宗、
デンマーク王国として統一国家(ルーン石碑が現存し、その“青歯王”）へ

- 中世はドイツ・ハンザ同盟（1356年～
- 15C(1397/デンマーク・カルマル同盟マルグレーテを実質的女王とする同君連合)
- 1523年にスウェーデンがデンマークから分離独立・ 1520年「ストックホルムの血浴」
  スウェーデンが三十年戦争（1618年 - 1648年）に勝利
  敗北したデンマークはバルト海から締め出された。

－ヨーロッパの強国の一つ「バルト帝国（スウェーデン）」の時代へ－

- 30年戦争の後50年程、1700-21年に、ロシアがそのスウェーデンと戦って勝利、バルト海の覇者となる。これがロシアが大国へ向かう契機となった
  大北方戦争、勝ったロシアがバルト制海権を握る。

30年戦争（1618年～48年）

- 1517年、ルターはローマ教会に抗議してヴィッテンベルク市の教会95ヶ条の論題を打ちつけた。その宗教改革から百年後に起こった三十年戦争は、最後にして最大の宗教戦争と言われる。

- ①ドイツ内の新旧両派の対立が、ベーメンでの事件を期に全ドイツに広がり、②神聖ローマ皇帝と領邦君主の対立　③スペイン＝オーストリアのハプスブルク家とフランスのブルボン家という国際的な対立へ・1625年、デンマーク王クリチャン４世はイギリス・オランダの資金援助を受け、新教徒擁護→→三十年戦争は、ドイツの都市と農村を荒廃させ独人口は大減少した。

- 戦後処理のウェストファリア条約は、主権国家間の条約という意味で最初の国際条約（主権国家体制へ）ーー仏・スウェーデンの優位

大北方戦争（1700～21年）ロシアの勝利

- ロシアがスウェーデン（カール12世）と戦って勝利、
  バルト海の覇者として大国化の契機をつかんだ戦争。

- 当時のスウェーデン：17世紀前半に三十年戦争の講和、ウェストファリア条約で北ドイツも領有、バルト海沿岸すべて支配する大国。
- 1700年、デンマーク軍のスウェーデン侵入から戦争→ロシア大敗→ピョートル大帝の壊滅軍隊の再建→ポルタヴァの戦いのロシアの勝利→スウェーデンの当時18歳の青年国王は重傷を負ってオスマン帝国に亡命、再度の戦いを組織したが、1721年に戦死

- ロシアのバルト制海権・後の大国化への道

ナポレオン戦争（1796年から1815年）

（欧州に国民国家意識高揚（デンマークはナポレオン側で参戦敗北）

- 講和（1814-1815年・**ウィーン体制**）で、ノルウェーを失い、
  海外領土はイギリスに占領され、艦隊も没収され、
  海上貿易も失った。（デンマークの海運は以前の輝きを失う）

・ **1818年**　デンマーク国立銀行が設置、
その結果、旧紙幣は新紙幣の6分の1の価値で交換、
デンマーク国債の価値も6分の1となった。
終戦時の日本と同じ・事実上の国家破綻に陥って経済の混乱

1820年代は経済危機に陥っている。

シュレースヴィヒ戦争（1864/02-1865/10）以降

（ユカタン半島の付け根部分・暖かく肥えた土地を巡って）-明治の頃

- **シュレースヴィヒ戦争（ナポレオン戦争敗北から33-50年後）**
- 第一次の戦い（1848年から1852年）経済危機から30年程後
  汎スカンジナヴィア主義とドイツ統一のナショナリズム
  プロイセン（ドイツ軍）の撤退で現状維持

・第二次の戦い（1864/02-1865/10）
  対プロイセンとオーストリアと戦い敗戦・屈服して、
  ユトランド半島南部の両公国
  （シュレースヴィヒ公国及びホルシュタイン公国）を放棄

「大国主義から小国主義への転換」

- **「外に失いしものを内にて取り戻さん**
  （*Hvad udad tabes, skal indad vindes*）

「内発的で非帝国的な道」⇒残された二つの力

一つ：残された北部の国土に植林・国土の再興
二つ：国民の知恵の力の涵養

（1865年以降の大転換）

エンリコ・ダルガスの植林活動

- **寒冷・乾燥の土地でも育つ植物を選ぶ**
  ユトランド半島北部の不毛の荒地に植林しようと言う試み

1900年末迄に、1340ヵ所の植林地、植林面積は**2.8万ヘクタールに及ぶ**
1860年の ユトランド半島の山林面積は，６万3500ヘクタールにすぎなかった
1907年には，19万2600ヘクタールに増加

森は雲を呼び，雲は雨をもたらした。雨がよく降るようになると，
気候は 温和となり，土壌が肥沃になった。国土の生産力の増強、増進。

大モミの林のおかげで、ユトランド半島は肥えた田園地帯に生まれ変わった。
木材が与えられた上に、よい気候が与えられ、豊かな土地と農作物が与えられた

内村鑑三 デンマルク国の話 信仰と樹木とをもって国を救いし話 (aozora.gr.jp)
https://www.aozora.gr.jp/cards/000034/files/233_43563.html

国土の改造

- 対プロイセン戦争後除隊の工兵士官・エンリコ・ダルガス
（36歳・1828年 - 1894年）は、ユグノー 教徒の宗教精神に導かれ
貧農多数を組織して，1866年にヒース協会を設立

もみの木がこの地で大木になるまで

寒さや荒れ地に強いノルウェー産のモミの木→枯れる→ノールウェー産モミの間に、アルプス産の小モミの木を植える→ 不思議にも、その２種類のモミの木は、互いに助け合う→でも建築用資材になる程は大きくならない→ ある程度育ったら小モミを取り除く→モミは育ち上がり、建築用資材になれる、大森林が広がった。

現在のデンマーク

茂った林で、海岸からの砂ぼこりと北海岸特有の砂丘をくい止めた。

肥えた田園地帯に生まれ変る・新しい町村が生まれ、牛馬を飼う牧場も次々に、バター、チーズは輸出産品、世界でも屈指の豊かな国へ

（日本では、内村鑑三の「デンマルク国の話」で紹介）

自然の力を引き出す

- 戦いによって失われたシュレスウィヒとホルスタイン（ユトランド半島のドイツ国境に近い暖かい地方）以上のものを、ユトランドの荒れ地に生み出すことができた。

- 農作物よりも、もっと尊いものが甦った：「全国民の魂」。デンマーク人の魂は、ダルガスの研究と実行の結果として、すっかり生まれ変わりました。

- 敗戦のために意気の衰えていた国民は希望を取り戻し、ひたむきな研究と我慢強い実行、誠実な協力によって、荒れ地を緑の野とし、祖国を甦らせ、ついに今日のような豊かな国家をうち建てることができたのです。
- https://blog.goo.ne.jp/in0626/e/372c446a40ee7f056db27be5946a60ba

国民の知恵の涵養（生涯学習施設）

- 1964　グルントヴィ（1783年9月8日 - 1872年9月2日）キリスト者
（ユグノー派）・農民の生涯教育、宿舎付きの学校
フォルケホイスコーレを提唱
施設の提供は、1864年から1872年の間に61、どんどん開設

・教育方針： 1)書物ではなく、人間が実際に話す言葉、2)人生の啓蒙、
3)他者との自由な相互作用により、互いの存在の承認、
4)生活に根差した知が重視され、出身地域や階級も様々
な人々が出会い共に生活し学び合うことを重んられた。

母国語で、良く話し合い、学び合う、コミュニケーション
自分達の力を認め合って、協働のパートナー同士に育つ生涯学習

フォルケホイスコーレ

- 16歳半また17歳半以上の人々に対して、全寮制のコース
  数週間の短期コースから数カ月に及ぶ長期コースまで
（試験等の選抜なし、修了後に資格や社会で直接に有用な修了証発行されない。家族向けコース、子育てながら参加コースも）

・デンマーク教育省により自由成人教育として制度的に位置付け
  法律でも規定されている。そして公的な財政支援が行われ、
  「学習文化と民主主義の促進に寄与している」との評価
特徴としては、何をカリキュラムとして提供するかは自由、そしてその学習手法に関して、政府から原則的に制約を受けない

国民性

- 歴史的背景として 1866 年世界で初めて農業協同組合が作られ、20 世紀に入り近 代工業化が進み農村で働いていた人が都市労働者となり、農業協同組合の経験を 生かし、そこでも労働組合を作っている。
- 突然の解雇や事故、病気になったとき 困らないよう、組合員たちが助けあえる「共生・連帯」の精神が「社会福祉国家」 へと受け継がれたと思われます。

3人集まれば、アソシエーション（組合団体協会）を作る

デンマークの反ナチの戦い

- 1939年４月９日　ドイツ軍が，デンマークへの侵攻開始
- デンマーク政府　①力関係を考慮して武装抵抗はせ ずに，無血で占領を受け入れる，
②ただし社会的・政治的・文化的 にはナチス体制を拒否する

占領下で行 われた選挙でも政党配置は変わらず，当時デンマークに，約8500名のユダヤ人が居住
（1943年10月１日・ユダ ヤ人の強制移送命令が発令，1500人のドイツ人警察官がユダヤ人狩り
翌日10月２日には全土で281名のユダヤ人が逮捕された。

・10月１日から数週間 の間，東岸の45の港から8000人のユダヤ人が船で中立国のスウェーデンへ
脱出を敢行、この時デンマーク民衆が多大な支援する。
デンマークにいたユダヤ 人の95％が脱出・54％は，18歳以下の子どもたちだった
大戦末期には、ドイツ軍への協力拒否の非暴力抵抗運動が，国王を先頭に国民総ぐるみで
（英国から武装ゲリラが侵入，これと呼応する武装抵抗運動も現れた）占領支配を内部から瓦解
ドイツ軍に占領されていたオランダや ポーランドでは大量の親ナチ勢力が生まれ
隣のノルウェーでも親ナチのクヴ ィスリング政権だった。
デンマークの地では結局，親ナチ勢力は根付かなかった。

デンマークの高齢者福祉の特徴

- 1979年に設立の「高齢者委員会」の**「高齢者三原則」**

1. 生活の継続性に関する原則（“在宅介護”の充実）
（これまで暮らしてきた生活と断絶せず、継続性をもって暮らす）

※入院・入所による「リロケーションダメージ」を防ぐ・
（生活環境を変えずに、治療生活をはじめようとしている）
住み慣れた地域で の生活継続の中で治療する（認知症も）

２． 自己決定の原則（高齢者の尊厳の尊重に関わる原則です。）
（高齢者自身の自己決定を尊重し、周りはこれを支えることを指す）
「高齢者になっても、一人の人間であることには変わりがない」

3. 残存能力の活性化に関する原則
今ある本人の能力に着目して、自立を支援する

デンマークの住宅制度

- 1992年非営利管理会社による民間賃貸住宅管理は禁止さる
  複数の財団による管理へ
  （社会生活の基盤である住宅をビジネスにしてはいけない）

- 行政の資金支援を受けて、住民自身が管理設立社会住宅組織を設立、賃貸住宅を建設・運営し、賃貸人が組織の構成員。この形式の住宅が、全住宅の20％（持ち家は50％ほど）

  http://www.jusoken.or.jp/pdf_paper/2006/0528-0.pdf

- デンマークでは,長い歴史の中で,住宅は,単に建て て住むハコモノとしてだけでなく,よりよく住み,共同 の繋がりを維持する場,コミュニティーの場へと変化し ている。量的充足だけでなく,むしろ「生活の質」の向 上に重点が置かれている。自主管理的に行政の後押し

住民自治、テナントデモクラシー

デンマークの福祉制度

- **無条件**（無差別、全国民平等の無条件）⇒国が運営 （無料）
  ヘルスケア，高齢者ケア，障碍者ケア，家族政策
  （ケアと手当の両方）は**税方式で無条件**
  【 **条件付き**（給料から保険料を支払う・勤労者だけ・失業者は不可）
  社会保険方式（保険金の管理運営は公共的な組織）】

疾病給付・日本の介護サービス・年金・失業給付が金銭給付(手当)
高齢者委員会（各市町村に設置が義務付けられている委員会・ 60歳以上の住民による選挙で選ばれ、**市町村の議会に助言や提言**）

福祉と介護の関係（2015）

- **消費税が25％.所得税が50％超え.　財源は税金.社会保険料無し**
- 　医療費ほとんど無料、介護福祉サービスも
  連携と言う枠組み・手厚い社会福祉サービスを提供。
  医療も福祉も税金・一見して驚くような税率・国民の高満足度
  （ロリケーション・ダメージに配慮→住み慣れた所で介護する）

- **出産費・教育費無料、育児制度も充実**
  出産費と幼稚園～大学までの費用が無料
  （お金をもらって大学にいくことが常識ということなそう）

デンマークの社会保障の考え方
（アクティヴェーション）

- デンマークのアクティベーション
  目的：転職時を支える社会保障
  仕事と福祉制度の連動体制、（失業したら福祉制度へ）
  企業の雇用政策との関連を持つ国の福祉・職業教育制度

★欧州の社会保障改革の主要部分
医療と所得保障(生活保護)と住宅保障の三本柱・・最後まで住み慣れた地域で

「エイジング・イン・プレイス（Ageing in place）」高齢者福祉中心の住宅政策
高齢者住宅にいながら「必要なときに，必要なだけ」24時間体制でケア
高齢者住宅は高齢者のための特別な ものではなく，“普通の家”
広さは公営住宅法で定められた 110m2以下、自立型60～80m2，介護型40m2 程

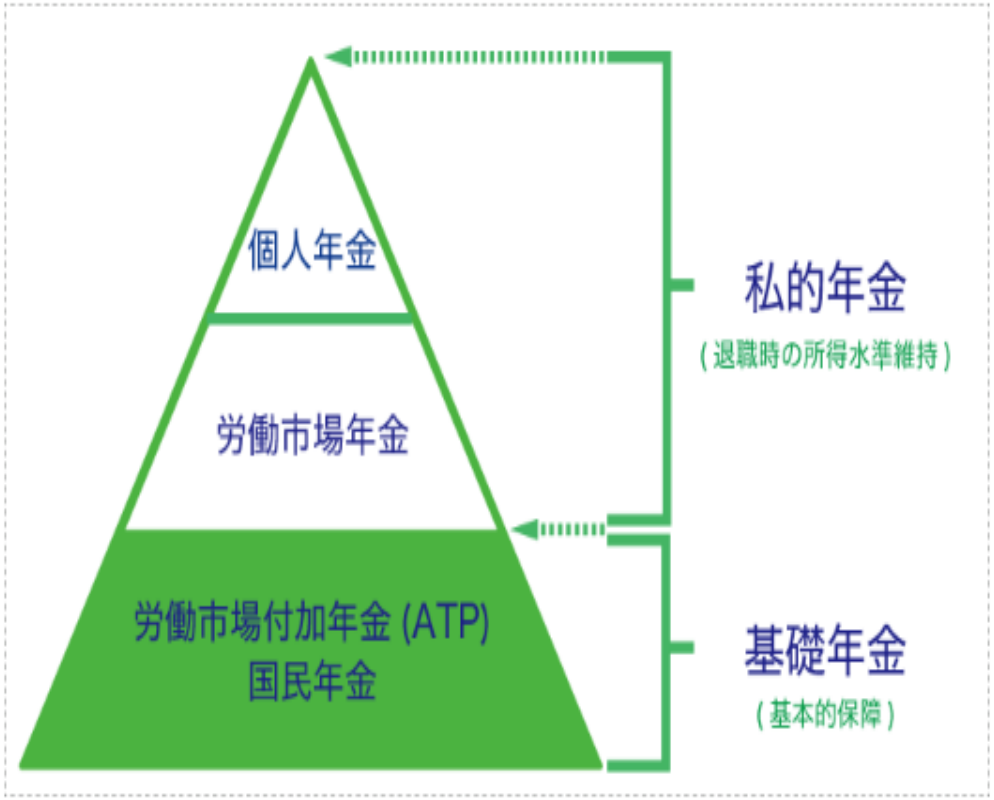
- 年金制度

基礎年金：税金で賄われている国民年金＋
就労者が掛ける義務を持つ労働市場付加年金
（通称ATP）ーー233千円との事
①貧困防止と③国民間のリスク分散を目的・
現在の年金受給者の収入基盤の約2/3　終生

　尚、労働市場付加年金（ATP）は
週9時間以上働いている人が強制的、
フルタイム勤務の掛金は、合計月約5,000円
個人(1/3負担)と雇用者(2/3負担)で)終生

私的年金：労働市場年金＋個人年金
労働市場年金：労使協定（職業別）で基準掛
率が決められ、個人1/3、雇用者2/3を負担

具体的には、デンマークの年金制度は下のような3層ピラミッド型構造になっています。



2019/06/15　選挙の結果

- 社民党が与党自由党を破る展開：
  社会福祉制度の拡充を訴え、関連予算を拡大すると表明。
  長年の緊縮財政に不満を抱いていた有権者から支持を集めた。
  （移民に厳しいスタンスも支持拡大につながった。）

4年ぶりの政権交代

北欧型-医療も福祉も税方式（プライマリ・ケアと介護が合体）

イギリスは医療は税方式だが介護は個人負担

デンマーク
社会保障制度
（特徴と国民性）

- ディーン人の国・バルト海の出口を押さえる地理的位置

- 10世紀 ハーラル1世がキリスト教に改宗、デンマーク王国へ
  中世には「北方の大国」・バルト海の制海権を握る
  （東インド会社経営・ノルウェー・スウェーデン・アイルランド領有）

- しかし相次ぐ戦争に敗北し・1865年の方向転換
  （**「外に失いしものを内にて取り戻さん**
  （***Hvad udad tabes, skal indad vindes***）

- 国民の知恵の力と寒冷な国土の豊饒化に期待をかけた
  ①エンリコ・ダグラスらにより、植林活動
  ②ニコライ・フレデリック・グルントヴィ提唱の生涯教育
  ホルケ・ホイスコーレ（宿舎付きの国民学校・寄付を募る）

- 現在・21世紀：豊かな森林・酪農国家へ、世界で一番幸せな国
  社会保障の特徴　高福祉・高負担
  社会保障は税金で賄われている
  最後まで住み慣れた地域で暮らす事が実現？